

学級委員を経験することによる資質の変化

専攻 学校教育学専攻
 コース 教育コミュニケーションコース
 学籍番号 M070101
 氏名 佐藤 守活

序章 問題意識と研究目的

本研究では学級委員を経験することによる資質の変化を探っていきたいと考え、学級委員を経験した生徒に着目して研究を進めた。

【歴史的背景】

明治 20 年代、学級組織が成立した当時から、能力があり、成績優秀の者に授けられる「名誉職」として設けられた。戦後になると、学級の自治を重んじる立場から、「自治活動の要」の存在へと変わってきている。

【学級委員の位置づけ】

国（指導要領）、県（教員研修の手引き）において学級委員という役名及び組織について明確に記載されておらず、地教委（愛知県海部地区）の教育課程案で、学級役員という名称が記載されているのに留まっている。

【学級委員に関する研究】

栗林・速水(1995)の研究では、学級委員になりたい理由に「有能観」などがあり、学級の構造しだいで、動機づけのあり方も変わってくる可能性があることを示唆している。また、大森・林(2005)の研究では、調査回答のキーワードからリーダーの資質を 10 類型に区分している。その中で「表現力」がリーダーにとって必要不可欠な資質と述べている。

【資質】

資質を「生まれつきの性質や才能」と辞書では、定義しているが、現在一般に資質について語られるのは、企業等におけるリーダーに必要な行動傾向や性質を示す場合が多い。資質は、企業のリーダーや生徒会役員といったある目的や役割を果たそうとするときに必要な能力や特性であると考えられる。

本論文では、教師や生徒のアンケートや語りから、学級委員として特徴ある活動をキーワードとして抽出し、それを元にして学級委員を経験することによる資質の変化を探ることを目的とする。

第1章 学級委員の実態

愛知県海部地区小学校 48 校、中学校 22 校にアンケートを行ったところ、小学校の学級委員のスタートに違いはあったが、海部地区の小・中学校においては、全ての学校に学級委員が存在した。また、多くの児童・生徒に学級委員を経験させたいという、学校側の意図が見受けられる。

第2章 教師から見た学級委員の役割と資質

教師が学級委員をどのようにとらえているのかを明らかにするために、担任教師 4 人による半構造化のグループインタビューを行った。このインタビューの語りを文字化し、修正版 GTA(木下 2003、西條 2007)を手がかりにして、分析ワークシートを用いて特徴的な概念を抽出し、概念間の構造を説明できる仮説モデルを構成した。

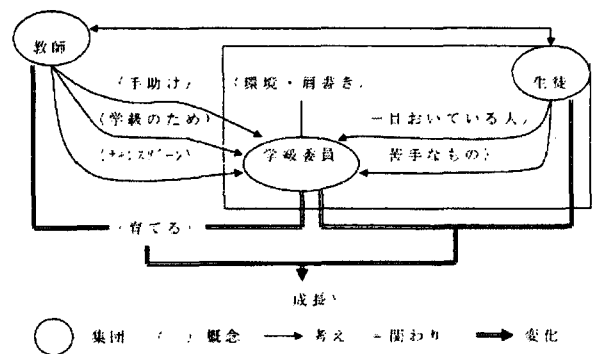


図1 教師の学級委員のとらえのモデル

第3章 学級委員を経験した生徒の全体像

学級委員経験者中学 1 年生 30 人、2 年生 29 人にアンケート調査を行った。アンケート結果を項目ごとにカード化し、共通する回答から新たなカテゴリーを作り、考察した。

- なろうと思った理由；クラスのために
- よかったこと；言うことを聞く、達成感
- 嫌だったこと；反抗・無視
- 身に付いたこと；責任感・自信
- 何のためにあるか；まとめる

第4章 個に注目した学級委員の資質

第1節 学級委員と担任教師のインタビューより

調査対象は、中学3年になって初めて学級委員になったBさんと担任教諭Iと1年から学級委員を経験しているT君と担任教諭Hである。

活動の変化が顕著に表れるのは学級委員と担任教師、生徒との関わりが大きい行事と考え、修学旅行、学校祭を絡めてインタビューは4回行った。

インタビューの語りを文字化し、マイクロ・エスノグラフィー(箕浦 1999)の手法を参考にして、生徒の活動、教師との関わりというテーマごとに資質の変化に関わると思われる特徴的な活動を拾い上げ、解釈を試みた。

【Bさんの語りからみる資質の変化】

学級委員就任

↓←活動を知らせる

「**仕事の活動「並ばせる」**」

↓←褒めるなど担任教師から間接的支援

「**気づく「行動する」**」

↓←行動への担任教師から直接的支援

「**全体への見通し**」

「気づいて行動する」ことから、「全体への気配り」に意識が向いている。

【T君の語りからみる資質の変化】

学級委員就任

↓

「**気づき、行動する**」

↓ (修学旅行を通して)

「**クラスメイトへの声かけ、気配り**」

↓ (学校祭)

「**クラスをまとめることへの意識**」

学級委員の活動を通して周囲から認められ「やりがい」を見つけ、活動がより積極的になっている。また、行事を通して個から全体へと「視野」が広がっている。

第2節 クラスメイトからみた学級委員のアンケート調査より

クラスメイトがBさんの学級委員としての活動でよかったのが、「並ばせる」、「みんなをまとめる」、「気づきの活動」があげられ、Bさんの学級委員長としての活動を認めている生徒が多く見られた。

第3節 クラスメイトによるグループインタビューより

Bさんが、仲が良くても、悪くても注意ができる学級委員であることを語っている。

第5章 総合考察

○ 「資質」についての再考

本研究のBさんやT君の学級委員としての経験を検討する中で、資質の変化は、活動の変化から生まれるものだということが見えてきた。「資質」は、人々との関係の中で役割を果たそうとする日々の活動の積み重ねからあらわれてくるものである。

○ 「環境・肩書き」からみた学級委員

学級委員に就任した時点でその「環境」から、初めての活動にも違和感なく取り組むことができる。また、学級委員という「肩書き」により活動を能動的に行える状況がつけられ、次の活動のための「気づき」を促すというサイクルが生まれる。

○ 教師との関わりからみる学級委員

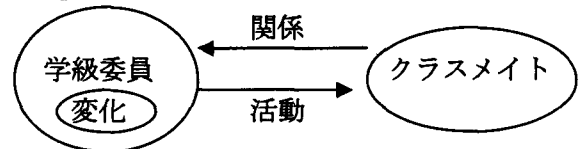
教師の学級委員についての考え方によって、関わり方は異なるだろうが、その関わりに影響を受けて、学級委員は気づいて行動し、視野が広がったりすると考える。またそれと同時に、きまりを破ることを思い止まる抑制がかかったりすると考える。

一方、教師の関わりに反発している生徒や教師の期待を自然に受け入れ、それに沿った行動をし、考えを身に付けていく生徒もいることを教師は十分理解する必要があるだろう。

○ 生徒同士の関わりからみる学級委員

学級委員はクラスメイトとの関わりの中で活動が変化し、資質が変化している。

【学級委員とクラスメイトとの関係】



○ Bさんの行動からみる資質について

Bさんが学級委員として活動していないときは、学校のきまりを破ることがあっても、学級委員だからいけない、と考えているわけではなく、一生徒として反省しているだけであろう。また、クラスメイトも授業の遅刻やエスケープがあっても、Bさんを学級委員として認めているのも事実である。学級委員という役になっているときに活動が変化しているのであれば、少しではあるかもしれないが、確かにBさんの成長があったと考える。

主任指導教員 安部 崇慶
指導教員 宮元 博章